



学校だより



重点目標 むつあい「笑顔」のハーモニー

今年度、重点目標を新しくしましたが、この新しい目標に示した「3つの笑顔」について振り返ってみました。

😊「子どもたちの笑顔」

教室での様子や行事での様子など、全体として見た場合には、子どもたちの笑顔にたくさん出会うことができました。でも実際には、様々な人間関係の中でたくさんの課題があったことも事実です。大切なことは、その課題をいかに解決していくのかという過程であり、解決していく力を育てることも学校の大切な役割だと思っています。学習の場だけでなく、子どもたちの社会性を育てる場としての学校のあり方についても、大切にしていきたいと思っています。

😊「保護者・地域の方々の笑顔」

学校評価アンケートからは、95%以上の保護者の方々が、「子どもたちが元気に(楽しく)学校に通っている」と答えてくださっていることから、それぞれの家庭の中にきっとたくさんの笑顔があったのかなと感じています。この数字が100%になるように今後もしっかりと課題をとらえながら、取り組んでいくことが大切だと感じています。

また、地域の様々な会議に出席する中で感じることは、子どもたちは本当にたくさんの地域の方々に見守られているのだなということです。元気に育っていく子どもたちを見た地域の方々は、きっと笑顔を見せてくれたのではと感じています。

😊「教職員の笑顔」

六会小のいいところの一つに、教職員のチームワークがあげられます。このチームワークの良さについては、様々な外部の会議等でも自慢しているポイントです。子どもたちのことで課題が見つかり、担任一人で抱え込むのではなく、子どもファーストの視点で、学年で共有しながら、ときには児童支援担当、スクールカウンセラー、行政機関等と連携を取りながら解決に向けて取り組むことができます。こうしたチームワークの良さから、職員室はいつも教職員の笑顔が溢れています。

「笑顔」という視点で振り返っていましたが、4月からの新年度を迎えるにあたっては、今年度の課題をしっかりと整理した上で、今以上に「笑顔いっぱい」の学校になるよう教職員一同、積極的に取り組んでいきたいと思えます。1年間、大変お世話になりました。

<4月の主な予定>

- 4日(木) 特別支援学級開級式
- 5日(金) 始業式・着任式・入学式
- 8日(月) 離任式
- 10日(水) 2~6年給食開始
- 11日(木) 1年生を迎える会、1年懇談会
- 16日(火) 4・5・6年授業参観懇談会
- 17日(水) 委員会活動
- 18日(木) 全国学力・学習調査
- 19日(金) 1年給食開始、2・3年授業参観懇談会
- 24日(水) クラブ活動
- 26日(金) 研究会のため午前授業

<給食白衣の修繕のお願い>

3月15日で1年間の給食が終了しました。当番だった子どもたちが、給食の白衣を持ち帰ったと思います。もし、ボタンがとれそうだったり、帽子のゴムが切れてしまっていた場合など、できる範囲で結構ですので、修繕にご協力ください。

よろしくお願いいたします。

学校評価 結果のまとめと考察

今年度も3・5年生の児童と保護者の皆さんにご協力をいただき、学校評価を行いました。紙面の関係で、ここではまとめと考察についてご報告いたします。詳しいデータ等は、ホームページでお知らせしますので、ご了承ください。また、先日行われた、第3回学校評議委員会において、学校評価アンケートの結果について学校評議委員の皆さんに報告し、意見交換をさせていただきました。

アンケート番号

A 学校が楽しい	児童・保護者ともに、元気に学校に通っていると感じているようであるが、3年生の児童は約83%であるのに対し、その保護者は95%とかなりの差が見受けられた。この親子の差である12%の児童は人知れず何らかの悩みや課題を抱えている可能性もあると考えられる。中学年は、教科の数も増え内容も難しくなってくる時期である。引き続き、楽しいと感じられる教育活動の工夫や学習面のサポートをしていき、100%に近い児童が楽しいと感じられるようにしたい。	児童 1. 3. 7 保護者 1
B あいさつ	児童の約80%近くはあいさつができておりと感じている。しかし教職員は36%程度であり、かなりの差が見受けられた。児童指導部から「アロハの約束」であいさつをしようと呼びかけているが、まだ「進んで」というところまでは成果が出ていない。今後も児童が自ら進んであいさつができるように、運営委員会によるあいさつ運動や職員による声掛けなどで、誰にでも自分からあいさつできるような指導を引き続きしていきたい。	児童2 保護者 2 教職員 12
C 生活	児童の多くはきまりを守ることができていると感じている。しかし、校内を走り回る児童が未だに多いことなどを考えると、もう一度きまりの確認が必要であると言える。自分には甘く、過大評価をしているのではないかと考えられる。高学年が手本となり、低学年にきまりを守る姿を見せられるように指導していく必要がある。そのためには、教員がしっかりと児童の様子や行動を見て、気づいた事をその場で注意していく必要がある。 また、10人に1～2人は、困ったり悩んだりした時に、誰にも相談できないと感じていることは重く受け止めるべきことである。児童の悩みや相談への対応は、今後もより一層大切にしていくべきである。今後も、この項目の%を0にすべく、児童理解を深めていく必要があるといえる。児童の言葉に耳を傾けて迅速に対応していきたい。	児童 6. 8. 9 保護者 3. 4 教職員 3. 5
D 学習	教師の多くが基礎的・基本的事項の定着を図る授業を意識的に行っており、校内研究が普段の授業に活かされていると感じている割合も昨年より14%も上がっている。しかし、積極的に授業に参加していると答えた児童は6～7割と、決して多いとは言えない。ペア・グループ学習をしたり、主体的に活動するアクティブラーニングを取り入れたりするなど、児童が自分の考えや思いを発信し、一人ひとりが活躍できる授業作りを行っていく必要がある。また、苦手な勉強を頑張っていないと答えた児童に対し、どう向き合い、どのように基礎基本の定着を図っていくのかも課題であると考えられる。 また、新たに追加した『あゆみはわかりやすい評価になっているか』の項目では、85%以上の保護者がそう思うと答えている。今後も、学習の成果を保護者や児童に、わかりやすく伝えていけるよう努力する必要がある。	児童 4. 5 保護者 5 教職員 2. 4. 6
E 安全	保護者の多くは児童の安全の確保や防犯の面で安心して児童を学校に通わせていることがわかる。しかし、災害時の行動を十分に把握している家庭は20%を切るまでに落ち込んでいる。もしもの時の家族の動向に自信のない家庭が多いと感じる。保護者には、引き渡し訓練などに危機感をもって取り組んでもらうなど、大震災を危惧して行動してもらおうよう、声かけをしていく必要がある。 4月の懇談会に「災害時の対策」についてわかりやすく説明を行い、年に一度は各家庭でも相談できる機会を設けられるように啓発するなど、今後もより一層の安全対策の充実を図り、保護者と児童への周知を徹底させたい。また、安全な通学路を通して登下校するよう、職員一同、家庭と連携をとって周知徹底していく必要がある。	保護者 6. 7
F 情報公開	学校だより、ホームページなどで学校の様子を伝えている。しかし、配布物に丁寧に目を通す保護者が80%を超えていても、教育目標や方針が伝えられていると感じている保護者は60%以下である。周知をしているにもかかわらず、このアンケート結果になるということは、今の時点で特に学校生活について問題を感じていないと捉えることができるのではないかと。今後も、4月の懇談会やそれ以外の機会にも折に触れて教師が伝えるよう、努めていければ良いと思う。	保護者 8. 9. 10 教職員 11
G 校内体制	一昨年度の反省から、掃除終了のチャイムを各学級で徹底させることが定着してきた。しかし、美しい学校であると思っている教職員は、79%と依然として低い。掃除の指導を徹底したり、教員の目が行き届かない昇降口や階段などの出張掃除に、もう少し目を配ったりすると良いのではないだろうか。 係ごとの意思疎通・組織の機能性については、できていると答えた教職員が昨年よりも23%増え、意識が上がっていることがわかる。若い教員が増えていることを考え、今後も、細かいことでも具体的に確認し、引き継ぎを密に行っていく必要があると考える。また、新しく追加した『教職員の物品管理ができているか』という項目では、64%ができていると答えている。昨年度より意識は上がっているという印象はあるが、依然として課題が残る。今後も、一人ひとりが物の管理をしっかりと意識して行き、気付いた人はどんどん声を上げていき、さらに徹底していく必要があると考える。	教職員 1. 7. 8. 9. 10